

和歌山県立医科大学医学部 衛生学教室

近畿学校保健学会会員の皆様、今日は。

当教室は、先代・武田眞太郎名誉教授からバトンタッチを受けて、13年目を迎えています。武田名誉教授のご指導を仰ぎながら、教室員スタッフ、互いの研究分野も手伝いあって、和気藹々と仕事をしています。

〈 スタッフ 〉

名誉教授	武田眞太郎
教授	宮下和久
准教授	吉益光一
助教	福元 仁
助教	竹村重輝
博士研究員	11名
大学院博士課程	3名
大学院修士課程	1名
大学院研究生	5名

〈 研究 〉

○ 学校保健

子どもの発育と環境要因との関連については、武田眞太郎名誉教授のライフワークであり、教室の大きな研究の柱です。本学会員の小西博喜先生、三野 耕先生、松本健治先生、白石龍生先生、森岡郁晴先生、後和美朝先生、宮井信行先生らが当教室で研究され、学校保健の教育、研究分野で活躍されています。武田名誉教授が神戸大学時代から育てられた阪神間の小中学校および公立高校のコホート集団を対象とした、生活習慣の観察、発育、発達の観察、または教育を通じての介入研究が30年余にわたって行なわれ、修士課程在学中の五十嵐裕子先生を中心に引き続き研究が行なわれています。

子どもの健康問題として大きな事柄として、子どもの肥満の問題がありますが、肥満そのもののみ注目するのではなく、体重増加とその子どもをとりまく生活に注目し、それを環境の変化として捉え、その要因を生活習慣の見直しという形で、子ども自身、家庭への啓発という視点で研究を進めています。また、肥満の生理学的メカニズムも急速に研究が進み、肥満細胞由来のサイトカインが注目されるようになりました。レプチンやインスリン抵抗性、ならびに子どものライフスタイル、動脈硬化進展に関する研究は、宮井信行先生（大教大）を中心に進められています。

最近では、教室の吉益光一准教授を中心として、母子・児童精神保健に重点をおいた研究を進めています。特にAIHD（注意欠陥多動性障害）の母体側での発症因子等に関する研究をはじめとした疫学研究が進められています。

○ その他

地域保健、介護福祉、さらには産業保健（振動、騒音、有機溶剤、中小企業、メンタルヘルス）についても、地域に根ざしたテーマを中心に研究に取り組んでいます。

今後共、学会員の諸先生方にはご指導、ご支援よろしくお願い致します。

（文責 宮下和久）